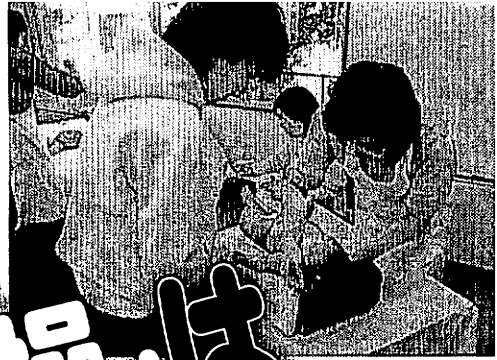


# 大論争!



## 「むきむき体操」は 立派な男子を育てるのか

### 親心か見栄か、 それとも余計なお世話か

ている親御さんが多いです。父親はそうでもないのですが、特に母親は、夫が本気になって話を聞いてくれない。なんておっしゃる方もいます。わからないことだらけで不安なんでしょう。

核家族、少子化が進む現代、女性の中には、母親になるまで、父や夫などの完全にはむけた男性器しか見たことのない人も少なくない。そうした人が、生まれた我が子のモノを見て、「正常なのだろうか」と不安になるというところらしい。

と、ここで本稿を終われば一風変わった流行をお伝えするだけのレポートなのだが、この問題は実はもっと深い。子供の包茎に対処してどのような処置をすべきかという問題は、小児医療界でも意見が割れて、論争を引き起こしているからである。

01年に開かれた「第10回日本小児泌尿器科学会総会」で、医師ら約200名を対象に行なわれた無記名アンケートでは、小児の包茎の診

断について必要63%、不必要37%という結果が出た。「健常な小児に対する包皮翻転指導」(つまり「むきむき体操」のこと)については、必要・不必要がそれぞれ48%。「小児包茎に対する手術療法」は、是認が47%、不要が52%と、こちらもほぼ半々に割れている。

前出の白髪氏は、「何か症状のない限り、積極的にむきむき反対派」という。むきむき反対派の一人だ。「子供の時期のおちんちんは主に排尿器官です。特殊な状況を除き、おしっこがちゃんと出ているのであれば何ら問題はありません。尿路感染を繰り返したり、宗教的な割礼が必要ということではなければ、無理にむくべきではないと思います」

白髪氏の元にも、3歳児健診などで「治療が必要な包茎」と判断された子供が再検査のため訪れる。しか

し白髪氏は、その9割以上は、包茎であるけれども生理的な状態で当たり前である「生理的包茎」と表現し、特に処置をしないという。中には先端があまりにも狭いなど、自然にむけそうにない子供もいる。その場合は皮膚を柔らかくするステロイド軟膏を処方することもあるが、基本的には幼少時からの包茎対策は不要だと断言する。

「赤ちゃんなら、親にむかれて痛みを感じることはないかもしれない。しかし、2〜3歳にもなれば大抵の子は嫌がりますし、それを執拗に親が追い掛け回せば、トラウマになる。無理にむいて皮が裂け、そこが硬くなって逆にむきにくくなってしまうこともあります」

「むきむき体操」には、親の包茎に対する「ポリシー」や本人の体質によって、向き不向きがあるようだ――。

■世界の割礼と包茎 割礼とは、男性の場合、陰茎包皮の一部を切り取る風習・儀礼のことで、世界の男性の約7分の1が割礼している

とされる。包茎の割合は、人種に関係なく世界の成人男性の8割が仮性包茎といわれ、日本の成人男性の1〜2%が真性包茎だという。

By The Way

# 〈あなたならどうする?〉

早めの対策が肝心?  
(写真はイメージ)

若い母親たちの間で息子たちの「ちんちんの形状」をめぐって大激論が巻き起こっている。しかも大マジメに――。

最近産婦人科で男児の「包茎」についての質問が増えている。

「夫のモノと全然違うから心配になった。むげばいいといわれたけど、どうすればいいのかわからない」

「夫は、いずれむけるから心配ない」というが、もしむけなかったらいじめられるのでは」

こうした息子のムスコを心配する母親たちの間で今話題になっているのが「むきむき体操」。赤ちゃんの男性器の包皮をむく体操のこと、育児雑誌や育児情報サイトでも取り上げられて、いまや子育てのスタンダードになろうとしている。

提唱者は厚木市立病院泌尿器科の岩室紳也医師。これまで6000人以上、年間約300人の「むきたい赤ちゃん」を診ている岩室氏はこう説明する。

「むきむき体操を行なうことで、子供のおちんちんを清潔に保てます。体操すれば将来的には全員が最低でも仮性包茎になるので、陰茎がなくなるリスクが高くセックスにも支障を来す真性包茎を回避できると考えています」



「冠状溝」、いわゆる「カリ」の部分まで毎日引っ張り続けていけば、包皮口も広がり亀頭が全部見えるようになる。これをオムツ交換のたびに、20回程度を1セットとして完全にむけるまで行なう――。

注意点は清潔な手で行なうこと、むいたら必ず元の状態に戻すこと。

「そのままにしてしまうと、包皮口が完全に広がっていかないうちは、包皮が亀頭を締め付けるカントン包茎になってしまいます。もし包皮が戻らなくなったら、亀頭を握って潰してください。おちんちんは握ったら小さくなります。それから、一気に強くむきすぎて皮が切れたりしないように注意してください」(岩室氏)

聞いているだけで、男なら股間がモゾモゾしてくる要するに、力づくでむいちゃいましょう」ということだから、結構痛そうなのである。

多くの男性が少年時代に体験したことだろうが、いわゆる「ズルむけ」状態に

岩室医師の「むきむき体操」指南書

なるまで、男性は痛みと闘わなければならぬ。むき始めの亀頭は敏感で、パンツの布に触れるだけでも痛みが走る。思春期に親の目を気にしながらトイレや風呂で、むく練習をし、徐々に慣らした経験は、多くの男性が共有しているだろう。

岩室氏は、この「痛み」を認めたくなくてこう語る。

「赤ちゃんのうちから行なう理由の一つは、赤ちゃんのほうに痛みは鈍感だからです。3〜4歳になると痛がって触らせない。小学生

## 「むきむき」には向き不向きが

岩室氏の指導を受けた親のうち、完全にむけるようになるまで通うのは約8割。脱落する理由は、親が我慢できないか、周囲の反対を受けるからだという。

東京都に住む30代の夫婦は、むきむき体操をめぐって、それぞれの両親を巻き込む大げんかになった。

「風呂上がり、妻が子供を股間をいじっていたので慌てて止めました。一皮むける、にはいくらなんでも早すぎます」(夫)

や中学生では親も子供も恥ずかしくてしてしまいます。早い子で2か月ほど、遅い子では半年から1年ほどで亀頭が完全に露出するようになる。岩室氏を実際にその場で赤ちゃんのおちんちんをむいて、親に「体操」の指導を行なっている。

「自分でできるようなったお母さんは安心して帰っていかれます。痛みに耐えた子は、かなり自信を持つ。親も、我が子が我慢できた、成長できたということに喜ぶんです」(岩室氏)

「夫だけでなく、義理の両親まで、かわいそう」といって止めるんです。私はこの子の将来を思ってやってるのに。いずれむけるなんて保証もないし、仮にそうなら今からむいてもいいじゃないですか」(妻)

日本小児泌尿器科学会専門医で、済生会栗橋病院小児科部長の白髪宏司氏が語る。「確かに最近はいよいよ煩われ